



長野県看護大学学報



オンライン授業配信



学内での受講の様子



授業資料の配布

「オンライン授業」 開始!

年初からの新型コロナウイルス感染症（COVID-19）拡大による国及び長野県の対応を踏まえて、本学でも様々な対応・対策を講じてきました。その中のひとつが、いわゆる3密（密集、密閉、密接）の回避等のための「オンライン授業」の導入です。これまでは大学院の一部授業で本学の開発した遠隔ケアシステム「サラス（Salus）」を活用してきましたが、全学部生を対象とした「Zoom」による「オンライン授業」は初めての試みであり、学部生及び保護者の皆様にはご心配等お掛けしたことについて、お詫びとお礼を申し上げます。一方で、逆境は未来の新しい形を創ります。ニュー・ノーマルな環境の中でも、決して誰一人取り残さない（No one will be left behind）ための対応・対策に取り組むこととお誓いします。

本学HP(4/23)「新入生、在学生の皆さんへのメッセージ」でもお伝えしましたが、今まさに本学の「レジリエンス（resilience）」が問われています。きっとこの困難を克服し乗り越えることが出来ると信じています。重ねて皆さまのご理解とご協力をお願い致します。

学長 北山 秋雄

令和2年度 入学式

令和2年4月2日(木) 本学講堂にて、入学式が行われました。

新入生一人ひとりの名前が呼ばれ、学部生85名、大学院博士前期課程13名、大学院博士後期課程3名の計101名が北山学長から入学を許可されました。

新型コロナウイルス感染症の感染拡大防止のため、規模を縮小しての実施となりましたが、新入生にとって希望に満ちあふれた新たな第一歩の日となりました。



学長コーナー

前回の学報(No.49)で、「今年の干支は「庚子(かのえ・ね)」年(ねずみ年)です。子年は十二支のサイクルがスタートし新しい運気が始まる年であることから、未来への可能性が開花してほしい」と期待をしたためました。

しかし、年初来の新型コロナウイルス感染症(COVID-19)の拡大でリーマン・ショック(2008)以来の災厄となり、今夏の東京五輪・パラリンピックも来年に延期となりました。本学でも国及び長野県の対応等を踏まえて、最大限の感染防止対策を講じながら、縮小して卒業式(3/7)と入学式(4/2)を挙行了しました。その後、二度の大学休業期間の延長を行って、漸く5/18(月)から授業を開始しました。

本学は高度な看護職者を育成する長野県直営の公立看護単科大学であり、地域と共にある「地(知)の拠点」でもあります。すなわち、地域の保健・医療・福祉にとどまらず、人々のWell-beingを支える人材を育成する大学でもあり、大学自体もさることながら地域の未来への持続可能性に対しても大きな責任を負っています。

本学は今年開学26年目を迎えています。「地域に学び、未来を拓く」行動理念のもと、「グローバル(Global)」と「チャレンジ(Challenge)」と「ケアカ(Caring)」と「叡智(Wisdom)」の4つを行動目標として、本学の教育理念である「学生個々人のもつ可能性が最大限に開花すること」を目指し、引き続きオリジナリティとブランド力を高め、個性豊かで魅力溢れる大学(Hub/Magnet College)づくりに取り組みたいと思います。

学 長 北山 秋雄

令和2年度 新入生紹介

吉田 萌恵さん(写真左)
看護学部1年生

この大学へ入学して早2ヶ月が経過しました。愛知県を離れてひとり暮らしを始めたことで、最初はホームシックに悩まされました。新型コロナウイルス感染症の流行により、大学へ行けない日々が続く、不安でしたが、SNSで友人と話したり、教員の方が優しく声をかけてくださったりして、今はこの大学に来て本当に良かったと感じています。サークル活動や対面授業が待ち遠しいです。これから4年間、授業やサークル活動、ひとり暮らし等、様々な経験を積み、幼い頃から夢だった看護師を志していきます。

小口 翔平さん

大学院看護学研究科博士後期課程1年生

私は看護学部の13期生です。今回、大学院博士後期課程の大学院生として、再び本学に戻って参りました。すでに開始されている講義はどれも学びが多く、親身な先生方の下、看護職者として、また研究者として、成長できていると感じます。今後もより一層勉学に励み、新たな学びの獲得に努めて参りたいと思います。

上條 夢来さん
看護学部1年生

長野県看護大学に入学して2ヶ月が経過しました。今年は、新型コロナウイルスの流行もあり、授業は延期され、その後、オンライン授業という形式となっています。そのような中、ようやく新たな環境に慣れてきたところです。まだまだ不安もいっぱい、例年とは異なる大学生活のスタートとなりましたが、いつも通りの生活が戻ってくることを願って、勉学に励んでいきたいと思ひます。



西谷 明奈さん

大学院看護学研究科博士前期課程1年生

JICA駒ヶ根訓練所の診療室に勤務しています。JICA海外協力隊の看護師隊員としてラオスに派遣された経験から国際看護の学びを深めたいと思いました。外出自粛を経て、大学に行ける喜び、同期と会える喜びを感じています。経験豊富な13名の同期と共に学べることをとても楽しみにしています。



STAINABLE DEVELOPMENT GOALS



新任教職員紹介

大学卒業後、看護師や保健師を経験し、4月から発達看護学講座成人看護学分野の助手を務めさせて頂いております。学生さんとの関わりや、共に働く先生方の姿から、改めて自分の看護を振り返り、看護の奥深さを実感する日々です。学ぶことが尽きない、看護という奥深い学問を選択し、現在は看護の基礎教育に携わる事ができることに喜びを感じています。学生さんが、看護の奥深さを感じ、看護を選んで良かったと思ってもらえる様、微力ながら尽力させて頂く所存です。宜しく申し上げます。

成人看護学分野助手 横山 仁美



左から、木村 絢加(看護教員養成)、山中いづみ(教務・学生課) 横山仁美(成人看護学分野助手)、米久保篤(事務局長)、小林清二(教務・学生課)、唐木繁一(総務課)

3月までは県庁で、保育や児童相談所などの児童福祉の仕事をしていました。4月からは、気持ちを新たにこの素晴らしい環境のなかで、皆様の学修を精一杯サポートしてまいりたいと思ひます。新型コロナウイルス感染症の第2波も懸念されますが、困ったことがあれば遠慮なく相談してください。皆様がそれぞれの道で活躍できることを心から願っています。新任教職員一同、本学の更なる発展のために取り組んでまいります。どうぞよろしくお願いいたします。

事務局長 米久保 篤

ご挨拶が遅くなりましたが、昨年の7月よりお世話になっております。

今年はオンライン授業の関係で、以前ほとんど接することのなかった皆さまとお話する機会が増え、嬉しく思ひます。どうぞ、よろしくお願いいたします。

情報処理教室補助員 大澤 すずみ

令和元年度 国際看護実習

新型コロナウイルスの流行と令和元年度の国際看護実習

本来であれば、令和元年度は「カンボジア」渡航の初年度でした。しかし、百年に1度と言われるような疫病が流行し、実習地を変更せざるを得ない結果となりました。東京・沖縄で展開した「国際看護実習」でしたが、10名の学生が参加し、平和を通じた看護の国際協力を考える又とない機会となりました。これからの自分に何ができるのか、何をしなければならないのか・・・など、それぞれが自分に向かい合う事が出来たのではないかと思います。日々厳しくなる感染状況に、実習先での生活も日々制約が強くなり大変でしたが、途上国でも起こりうる感染危機管理を学んだ1週間でもありました。

基礎看護学分野教授 国際看護実習科目担当 望月 経子

海外での生活経験がある友人の話聞いたことで海外の価値観に興味を抱き、国際看護実習を履修しました。カンボジアでの実習は中止になりましたが、多くの方のご協力があり、世界の課題や途上国の医療について学ぶことができました。途上国での活動体験談を聞いて、相手に自分の価値観を受け入れて貰うには、まずは相手を受け入れる必要があると学びました。看護職は多様な価値観を持つ人と向き合い、働きかけていきます。そのため、たとえ自分の意見に根拠があっても押し付けにならないように心がけていきたいです。

道法 蒼さん(看護学部4年生)

私は、以前から国際協力について興味を持っていたのですが、「いつか自分も何かできたらいいなあ…」くらいのふわふわしたイメージでしかなく、なかなか行動に移せていませんでした。しかし、今回の国際看護実習に参加している中で、国際協力に関する様々な方のお話を聞くことができ、とても刺激をもらうことが出来ました。今の自分には何もできないのではないかという考えを変えるような、大切な経験が出来たと思います。このような自分に行動力と勇気を与えてくれる貴重な経験をさせてくださった先生方や、体験談を聞かせて頂いた方々にはとても感謝しています。ありがとうございました。

中澤 侑希さん(看護学部4年生)

国際看護実習を通して、駒ヶ根、東京、沖縄で国際協力に携わる方々から国際協力や、その中での看護の役割について学ぶことができました。自国とは異なる文化・歴史的背景をもつ国における支援としては、価値観の違いを受け止め尊重することや、現地の人から学ぶ姿勢を持ちながらその国の強みを引き出す支援をすることが大切であると感じました。今回の実習で得た気づきや学びは、今後、看護職として働く上で活かしていきたいと考えています。ご支援くださった皆様に感謝しています。ありがとうございました。

安達 理乃さん(看護学部4年生)



NGOジャパンハート カンボジアの病院での活動を学習



JICA市ヶ谷研修所 SDGsの学習

退任の挨拶

在任中は大変お世話になりました。現在は非常勤で授業を担当しておりますが、昨今の情勢で、LL教室でオンライン授業を行なっています。定年を過ぎてから、未知の授業形式に挑戦することになるのは…。LLシステムを活用できずもったいない限りですが、これは新たな学びの機会でもあります。学びに年齢制限はないということでしょう。医療関係者の活躍を祈り期待する他はない現況ですが、その一翼を担う皆さんの教育に携わることができたのは大きな喜びです。授業に加え、科学研究費課題研究、論文執筆、学会活動など、もう少し頑張ります。

前英語・英米文化学分野教授 西垣内 磨留美



長野県看護大学にはこの3月まで、16年間仕事をさせて頂きました。諸先生方や事務の方々、学生の皆様にはあつくお礼申し上げます。周知のとおり5月下旬に緊急事態宣言が解除され、私自身も施設に暮らす母親とのオンライン面会が可能となり、お互い無事の姿を見てほっと一息つくことができました。看護大学の職員のみなさまにはこの異常事態の中で、自分、家族、学生を守るために緊張の多い毎日を過ごされていると存じます。研究や課題に邁進できる日常の日々がまた必ず還ってくることを願い、そのときに再びお会いできる日を楽しみに待っております。

前母性・助産看護学分野教授 藤原 聡子



新型コロナウイルスの感染拡大によって、教職員や学生の皆様は年度当初からご苦労されていることと拝察いたします。当たり前かもしれませんが、医療の分野においても、最先端の技術だけでなく、外出自粛やマスク、手洗い等の日々の行動の重要性を今回のコロナ禍で改めて感じました。看護に携わる皆様にも、人間味のある日々の取り組みを大切にしてほしいと思います。私は現在、(公財)長野県長寿社会開発センターでお世話になっております。明るく豊かな長寿社会づくりを応援する団体です。今後ご指導をお願いいたします。結びに、皆様のご健勝と看護大学の益々のご発展を祈念申し上げて挨拶いたします。2年間ありがとうございました。

前事務局長 宮村 泰之



フォトかんごだい

令和2年1月～6月



1月27日
学生向けハラスメント研修会



1月28日
令和元年度 認定看護師教育課程修了式



2月15日
西垣内 磨留美教授 退任記念講演



3月6日
卒業記念植樹式



3月7日
卒業式



4月2日
入学式

ソロプチミスト協会からの支援金贈呈式

令和2年5月18日、本学大会議室において、国際ソロプチミストアメリカ日本中央リジョン2019年度リジョナルプロジェクト大学女子学生・専門学校女子学生支援金贈呈式が催されました。ガバナーの宮脇テル子様より2年生の松井莉那さんへ「社会のために貢献するよう期待する」とのお言葉があり、松井さんからは「この支援を無駄にしないよう学生の頃からできることをしていきたい」とのお言葉がありました。



大学の活動紹介

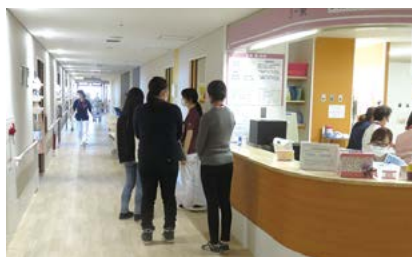
終末期看護研究プロジェクト プロジェクトリーダー（老年看護学分野准教授）千葉 真弓

終末期看護研究プロジェクトでは、死を迎える人やその家族、友人、看護職者・介護職者を対象に、終末期における質の高いケアやケア・システムのあり方を考えることを目的に活動しています。これまで介護保険施設での終末期ケアを中心に、認知症高齢者の意思を尊重した看護方法や看取りのための看護実践内容、終末期における日常生活支援と医療連携のための看護実践を明らかにしてきました。最近では、がん終末期にある独居高齢者が在宅で最期まで暮らすための看護実践に焦点をあてた研究活動を行っています。このように終末期ケアの重要な要素として生活の継続支援と医療の提供をキーワードに研究に取り組んでいます。

飯田市立病院ワークショップ

壬生 浩幸さん（4年生）

私は2月13日に飯田市立病院で開催されたワークショップに参加しました。「多職種連携」をテーマとし、臨床現場で働く飯田市立病院のスタッフの方々に信州大学の医学生、私たち看護学生が加わり、ある患者さんの入院前から退院後までの期間で医療職がどのように関われるのか意見を出し合いました。私たちが医療職の方と関われる場面は限られているので、異なる立場での意見を聞くことが出来る貴重な機会となりました。



たんぽぽの会について

小児看護学分野助手 小原 綾香

「たんぽぽの会」はアトピー・アレルギーをもつ親子のための会で、月1回の定例会と年1回の講演会を小児看護学分野と共同で開催しています。昨年7月はアレルギーエデュケーターさんをお呼びして相談会を、1月は市の職員さんをお呼びして「駒ヶ根市の学校給食における食物アレルギーの対応について」という内容で講演会を行いました。メールでの相談も受け付けています。興味を持った方はホームページをご参照下さい。

たんぽぽの会ホームページ：<https://sites.google.com/site/komaganeltanpoponokai/>



思春期ピアカウンセリングサークル サークル顧問（母性・助産看護学分野准教授）河内 浩美

本サークルは、昨年度より活動を始めた新しいサークルです。サークル員自身も学びながら、年頃の近い思春期世代に向けた健康教育やカウンセリングといった活動を行っています。昨年度は、学内外でのAIDS啓発イベント、県主催の思春期ピアカウンセラー養成講座への参加や鈴風祭の来場者に「セクシュアリティに触れてもらおう」とイベントを企画実施しました。更に地域に向けた活動を展開していこうと活気あるサークルです。思春期世代の健康支援に興味のある方は、一緒に活動していきませんか。



本年度のオープンキャンパスについて

新型コロナウイルス感染拡大防止のため、毎年8月上旬に開催しておりましたオープンキャンパスは中止いたします。ご参加を予定されていた皆さまには、大変申し訳ございませんが、何卒ご理解くださいますようお願い申し上げます。

なお、少しでも本学の様子を知っていただくために、大学の紹介などを順次配信していく予定です。

本学ホームページでお知らせします。
見てくださいね～♪



学生が考案した「健康弁当」

2020年2月18日(火)、本学の学生が考案した「信州健康弁当」を昭和伊南総合病院で提供しました。同院「糖尿病教室」の参加者及びスタッフの皆様にも600円で販売、予定していた35食を完売しました。授業「信州学」で、1年生が県の特産品を調べ、塩分・カロリーを控えても満足できるようなメニュー案を作成しました。昭和伊南総合病院臨床栄養科に協力いただき、キノコ、フルーツ、野菜が豊富な献立になっています。調理は駒ヶ根市内のアルテホール・光祥院様が担当しました。参加の方からは、彩りや味付けの工夫に高い評価をいただきました。

健康・保健学分野准教授 秋山剛





大学院だより

vol.8

■ 教員の研究紹介

私が専門とする母性看護学および助産学は、妊娠、分娩、産後といった周産期のみならず女性の一生にわたる健康やセクシュアル・リプロダクティブ・ヘルス（SRH）といった性と生殖の健康にむけた支援を行うことを主な目的としております。人生で初めて行った看護研究は、看護学生時代の母性看護学研究室での卒業研究であり「母子分離状況にある母親の胎児感情に関する研究」といったテーマでした。実習の傍らで褥婦さんに研究への協力依頼のために実習病院に通っていたことを思い出します。当時は、論文を読むことも統計処理のためにエクセルを使うことも、質問紙を作成することも何もかもが初めてのことばかりで、本を読んでも分からないことだらけの中で論文を書き上げたように思います。指導教員から「『知る喜び』『できる喜び』を沢山味わう人生を送ってください」というメッセージを卒業時にいただき研究の面白さが少し分かったように感じました。その後の臨床時代では研究どころではなく過ごしておりましたが、教育に携わるようになり改めて本格的に研究に取り組む機会を得て現在に至っております。これまで、共同研究では、臨床において助産師の自立、産科医不足下における潜在助産師の活用や開業助産師の訪問活動、母乳育児支援等に関すること、看護師・助産師教育において学生の学習時の疲労やインシデント体験に関する事などを行って参りました。また、個人研究としては、二次性徴に始まる性的な成長がピークを迎えるお子さん達のSRHに対するセルフケア能力の習得に向けた親御さんへの支援について長らく取り組んでおります。研究をまとめ上げるまでには、想像以上の労力を費やし、逃げ出したくなることも多々ありますが、研究を重ねるごとに指導教員のメッセージが意図したことが実感できるようになって参りました。そんな経験を、これからも多くの皆様と共有して参りたいと思っております。

母性・助産看護学分野准教授 河内 浩美



■ 修了生紹介

博士課程では、看護基礎教育における看護倫理教育に関する研究に取り組みました。在学中は、指導教授のもと様々な研究方法を学び、多くの研究に取り組みました。この3年間は、指導教授をはじめ多くの先生方や大学院生のみなさまに支えていただき、研究の楽しさや奥深さを実感することができました。修了した今、博士課程での研究を基盤に、看護継続教育における看護倫理教育の研究をすすめています。今後は、研究者としてひとつひとつ丁寧に積み上げていくことはもちろんのこと、博士課程で得たことを学部生や大学院生に伝え、様々な研究と一緒に取り組んでいきたいと思っています。

博士後期課程 令和元年度修了 吉岡 詠美さん



■ 院生紹介①

看護実践能力や研究能力を獲得したいと思い、今年度博士前期課程に入学し、2か月が経ちました。新型コロナウイルス感染症の流行により、感染予防に配慮してもらい、現在は遠隔で講義を受けさせていただいています。

はじめての遠隔授業に対して不安な気持ちでしたが、先生方や一緒に学ぶ仲間が支えてくれ、楽しく学んでいます。自分の未熟さを痛感し落ち込むこともあります。講義で学んだことを実践に活かすことの喜びを感じます。

仕事と学業の両立で忙しい日々ですが、仲間と切磋琢磨しながら学びを深め、研究を進めていきたいと考えています。

博士前期課程1年生 熊谷 ひとみさん



■ 院生紹介②

“自分の強みとは何だろう”そんなことを思いながら看護師として働いていました。日々の看護や業務に追われる中で、もっと看護を学びたい、自分の中に看護の核となる部分を見つけたい。そんな思いを解決するために大学院への進学を決めました。

現在私は基礎看護学分野で中堅看護師に関する研究をしていこうと考えています。大学院の授業では“看護とはなにか”を考え、自ら学ぶ楽しさを改めて発見するとともに、同期で入学した、経験も年齢も違う仲間と意見交換をすることで、自分自身の知識や思考の広がりを感じています。

またこの地で学べる喜びを噛みしめながら、先生方の指導のもと、研究活動に取り組んでいきたいと思っています。

博士前期課程1年生 飯嶋 勇貴さん



長野県看護大学大学院看護学研究科入学試験

令和3年度入試の募集人員・日程

1次試験

試験名	博士前期課程試験	博士後期課程試験
出願期間	令和2年10月1日(木)～10月8日(木)	
試験日	令和2年10月24日(土)	
試験科目	小論文・専門科目 ・面接	英語・口述試験
合格発表	令和2年10月30日(金)	

2次試験 (1次試験の状況により実施しないことがあります。)

試験名	博士前期課程試験	博士後期課程試験
出願期間	令和3年1月4日(月)～1月12日(火)	
試験日	令和3年1月30日(土)	
試験科目	小論文・専門科目 ・面接	英語・口述試験
合格発表	令和3年2月4日(木)	

募集人員：前期課程16名、後期課程4名

専門学校・短期大学を卒業した方も、事前審査により出願できます。

※新型コロナウイルス感染症の影響等で試験日程・方法を変更する場合は、
長野県看護大学ホームページ (<https://www.nagano-nurs.ac.jp/>) でお知らせします。